

事業所名	プロッサムジュニア 東住吉教室	支援プログラム（放課後等デイサービス）	作成日	2025年	3月	5日	
法人（事業所）理念	えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるよろこび」		営業時間		9時30分から17時		
支援方針	・集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） ・他者のかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 ・音楽や体操、絵本などの遊びを通して情報を豊かにします。 ・「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子様に寄り添います。		送迎実施の有無	(あり)	なし		
ねらい	支援内容	具体的な活動や支援内容					
健康・生活	(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的生活スキルの獲得	(a) 健康状態の把握 健康状態とともに体育でから健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の異なるチャックと必要な対応を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの特徴及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づくよう、さめ細かな観察を行う。 (b) 健康の維持 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健常な生活の基本となる食を専門的の育成に努めるとともに、心身の成長を促すよう、口腔内機能、感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下・姿勢保持・自具筋等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行なう。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまにした身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的生活スキルの獲得 身の回りの物事、生活の新規の経験、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 (e) 構造化により環境調整を整える 生活の中で、こまごまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。始まりの会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるよう促します。困り感がある場合は、気持ちの絵カードや言葉のモチルを示し、自分で表現できるよう支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替えなど）の習得を支援し、教室の日課に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。（作業療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスを行います。） ・水筒や弁当箱、筆箱やプリント類をロッカーへ所定の場所に戻すよう声掛けを行う。 ・ランドセルの上部を確認し、プリント類を整理整頓されていない場合は一緒に連絡表に片づけることを簡便化する。				
運動・感覚	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用	(a) 姿勢と運動・動作の基本的な往復の向上 日常生活における動作の基礎を身につけて上肢・下肢運動・動作の改善及び平衡・関節の拘離や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c) 身体の移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保有する感覚の活用 保有する感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の援助及び代行手段の活用 保有する感覚を官能で感じて状況を察しやすくなる眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や純和）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や純和）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	体操などを通じて、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指します。サークットなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通して、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組むことで、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行います。色々形の異なるプリントや绘本などの教材を用いて、規則的に理解する力の向上を促します。様々な運動や音を聞いた活動、リズムを合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しい活動の中で聞くことや聴いて理解する力を促進します。 ・バランスストーンやランボリック、バランスボールなどを使ってバランス感覚や体幹を鍛える。 ・姿勢保持が課題の児童は、足元にバランスマシン等を置いて足の位置を与えて姿勢を持ちながら、ボディイメージが課題の児童にはシールを衣服に貼つけてつけられた箇所を探したり、シール剥がすなどの活動を行う。 ・集団療育では運動を通じた微細運動、しつばりやボール投げを通じた粗大運動に取り組んでいます。				
本人支援	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間・数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚認知の活用 視覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の連携 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につながるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知行動への手掛かりとなる概念の形成 物の形や量や大きさ、色、形、色が変化する様子・空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。 (d) 数量・大小、色等の習得 数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の偏りを察し、自分で入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。	買い物や料理を通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。給料や歌、パズル、時間を見るゲームを使い、楽しみながら空間・時間・数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 ・感情のコントロールができるように順番や交換、「貸して」と言葉で伝えるなどの手立てを練習する。 ・一対一で練習することで、「貸して」と伝えたら必ず貸してもら環境や少し待てば順番が回ってくる環境の中で練習を行い、言葉で伝えるスキルや相手のタイミングに合わせる。先の見通しを立て順番を持つ等のスキルの定着を図り、感情のコントロール方法を学んでいく。				
言語 コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 空間・時間・数等の概念形成の習得 (c) コミュニケーション手段の選択と活用 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の出成と活用 具体的な状況や状況の意味を詰めて語り、体系的な言語の習得、自発的な声量を促す支援を行う。 (b) 受容言葉と表現言葉の支援 話の言葉や各言葉の文・記号等を用いて、相手の意思を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行なう。 (c) 人と人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された個々のコミュニケーション能力を育てる、共同の注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 手書き・身振り・指差し・身振り・身振り等を用いて、環境の理解と情報の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の獲得 読み書きの基礎知識を身につけるための支援。 (f) コミュニケーション機器の活用 発達障害の子さまほど、障害の度合いによって書き書き能力の向上のための支援を行う。 (g) 各種のコミュニケーション手段を用いたコミュニケーション手段の選択と活用 各種のコミュニケーション手段のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と情報の伝達が円滑にできるよう支援する。	お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意図を理解し応答しながら、遊びややりとりを通じて人への关心を広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、実際にものを見たり触れたりしながらこなすことばの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通して楽しくことばを学ぶ環境を提供し、日常会話を活動で新しいことばや概念をつかむ機会をつくります。また、「貸して」「いいしょに遊ぼう」などのやりとりを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。 ・個別療育を通して様々な気持ちは理解のため自分の気持ちの表し方を職員と一緒に考える環境作り、実生活で実践していく。 ・集団療育を通して職員が見本を示しながら、児童と関わる楽しさを感知し、適切な言葉遣いや相手に伝わる話し方を学んでいく。				
人間関係 社会性	(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加	(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人の関係性を意識し、身近な人や親類の関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 (b) 模倣行動の支援 遊びを通して人の動きを模倣することにより、社会性や人間関係の芽生えを支援する。 (c) 感覚経験遊びから人間関係の支援 感覚経験遊びから人間関係の支援を兼ねる遊びから、見立て遊びやつまも遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 一人遊びから社会遊びへの支援 周囲に子どもがいても無関係で一人一人遊びの状況から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊び協同遊びを導く。 (e) 自己理解ヒントカードのための支援 大人が介在して自分でできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるよう支援する。 (f) 集団への参加への支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	事前に視覚的な手掛かりを使って丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるよう支援します。少人数での体操やゲームなどの活動を通じて、社会性の向上をめざします。またお子さまが他の児童や職員と遊びながら、遊びややりとりを通じて人への关心を広げます。表情やジェスチャー、視線などを用いたコミュニケーションを支援し、実際にものを見たり触れたりしながらこなすことばの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通して楽しくことばを学ぶ環境を提供し、日常会話を活動で新しいことばや概念をつかむ機会をつくります。また、「貸して」「いいしょに遊ぼう」などのやりとりを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。 ・タブレットを使用して始まりの時間、終わりの時間等の時間の意識を持つ。集団療育や個別療育などの一斉指示を通じて先を見据えた行動を行い、相手の気持ちを尊重した行動を取ると共にその場面に応じた行動が出来るよう促し、習慣化する。				
家族支援	・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を送迎時（お迎え時）や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングは別で面談の機会を設け、保護者に共有していただきます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。	移行支援	・必要に応じて学校に訪問し、児童との関わりについて情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子を他事業所や相談支援に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校（保育園・幼稚園）への送迎・先生に対し、学校（園）での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。				
地域支援・地域連携	・開催機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連携会議を開催定期的に開催し、情報収集・役割分担にに関して協議します。 ・各関係機関の情報に基づき、具体的な場面での関わり方や、困りごとに応じての提案やポイントを共有します。 ・セルフプランの方には利用計画のコーディネートの中核を担当する事業所の開催する会議に参画し、情報共有を行います。	職員の質の向上	プロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・身体拘束実証研修 ・感染症対策研修 その他 児発育ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施				
主な行事等	・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動						